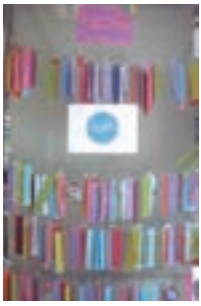


Special events

ワールドブラザ「TANABATA WEEK」

名古屋キャンパスのワールドブラザにおいて、6月30日～7月4日「TANABATA WEEK」と題した国際交流イベントが開催された。期間中ワールドブラザには、各国の言語で書かれた短冊が飾られたほか、7月7日には、自分の願いごとをテーマに外国語でのスピーチコンテストも開催された。この他にもワールドブラザでは、「Theme of the Week」と題してさまざまなイベントを実施している。



朝日新聞 愛知環境7大学

集中公開講座2008「浅井慎平 with 南山大学」
2010年名古屋市でのCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)開催決定を機に、6月25日、名古屋キャンパスに写真家の浅井慎平氏を迎え、「今我々ができること、しなければいけないこと」と題した講演会が行われた。



2008年度オープンキャンパス「みつかるみらい。」

2008年度オープンキャンパスが7月20日、名古屋・瀬戸両キャンパスで同時開催され、両キャンパス合計で5,700名の来場者を迎えた。



NASSS プレイベント・特別講演会

今年で2年目を迎える名古屋アメリカ研究夏期セミナー(NASSS)のプレイベントとして、7月25日特別講演会が同時通訳付きで一般公開され、350名を超える来場者を迎えた。



南山のDNA DNA DNA DNA

夢を追いかけた日々

後藤 浩二

南山大学法学部法律学科 1996年卒業

ジャズミュージシャン 豊知照出身。父親の影響で4歳よりクラシックピアノをはじめ、高校時代にジャズに興味を持つ。南山大学入学と同時にジャズピアノをはじめ、在学中より名古屋市内のライブハウスを中心に演奏活動を開始。現在、名古屋を拠点に東京や大阪など全国にその活動範囲を広げている。

各方面で活躍する本学卒業生をリレー形式で紹介していくプレイベント「南山のDNA」シリーズ、第2回となる今回は、ケン・マサイさんの紹介でジャズミュージシャンの後藤浩二さんです。

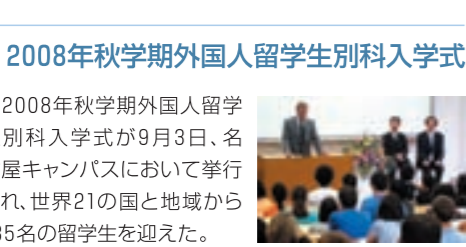
法曹への夢とジャズミュージシャンへの夢という二つの夢を持って1991年、南山大学法学部法律学科に入学しました。南山大学のジャズ研究会は歴史が古く、ジャズ界ではかなり名が通っており、OBの中にはプロで活躍されている人もいます。

さて、僕の学生生活は授業と部室の行き来でスタート、南山大学というフィールドで充実した毎日を送ることができました。学業では法律の総論から各論まできめ細やかに先生方が教えてくださいました。卒業して12年



2008年度総合政策学部秋学期入学卒業式

総合政策学部秋学期入学者9名の2008年度卒業式が8月5日、瀬戸キャンパスにおいて挙行され、アジア5つの国と地域(台湾、中国、ミャンマー、タイ、マレーシア)の外国人留学生を送り出した。



2008年秋学期外国人留学生別科入学式

2008年秋学期外国人留学生別科入学式が9月3日、名古屋キャンパスにおいて挙行され、世界21の国と地域から135名の留学生を迎えた。

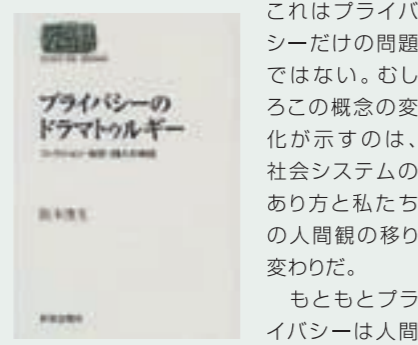


ポスト・プライバシー

阪本 俊生

拙著「プライバシーのドラマトゥルギー」を世界思想社から出してから早くも9年の歳月を経た。当時は、書けばすぐに別のテーマに移ろうと考えていた。だが、現代の情報化とプライバシーについては最終章でふれただけだったので、ふと、これと思う存分論じて完結させたいという欲が出た。出版社からの話もあり、「ポスト・プライバシー」(プライバシー後のプライバシー)というタイトルで書くことになった。

近代のプライバシー萌芽期から、20世紀のプライバシー意識の高揚までを探索した私には、今日のいわゆる情報セキュリティ=プライバシーにはまったく違和感がある。プライバシー概念はここ数十年で大きく変化したが、これはプライバシーだけの問題ではない。むしろこの概念の変化が示すのは、社会システムのあり方と私たちの人間観の移り変わりだ。もともとプライバシーは人間



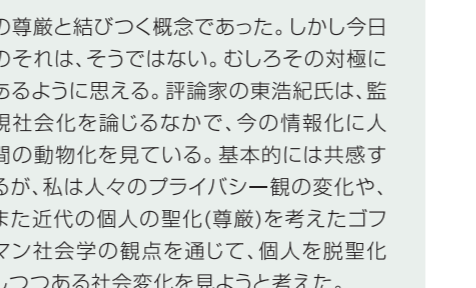
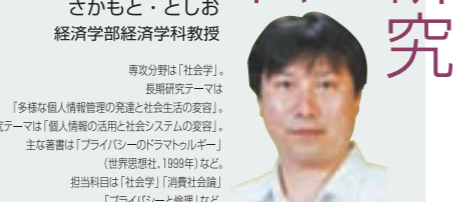
私の研究

さかもと・としお

経済学部経済学科教授
専攻分野は「社会学」、長期研究テーマは「多様な個人情報管理の発展と社会生活の質」、短期研究テーマは「個人情報管理の活用と社会システムの発展」、主な著書は「プライバシーのドラマトゥルギー」(世界思想社、1999年)など、担当科目は「社会学」「情報社会学」「プライバシーと倫理」など。

の尊厳と結びつく概念であった。しかし今日のそれは、そうではない。むしろその対極にあるように思える。評論家の東浩紀氏は、監視社会化を論じるなかで、今の情報化に人間の動物化を見ている。基本的には共感するが、私は人々のプライバシー観の変化や、また近代の個人の聖化(尊厳)を考えたゴフマン社会学の観点を通じて、個人を脱聖化しつつある社会変化を見ようと考えた。

当初は2年で書き終える予定であった。ところが予想外に難航した。構想はあるのだが、うまくそれを表現できない。一方、問題をとりまく環境は急速に変化しつつある。原稿執筆は速い方だと自負していたが、今回はそうはいかなかった。それもようやくこの3月に書き終えた。完成原稿の作成に手間取り、8月末ようやく完成したが、長く苦しい戦いを終えた心境だ。最終的にこれを可能してくれたのは、本学の研究休暇制度であり、その利用を許してくれた大学およびスタッフの方々から感謝申し上げたい。次は経済社会学に本腰を入れてとりかかろうつもりだ。



Information

後援会定例評議員会・総会 開催

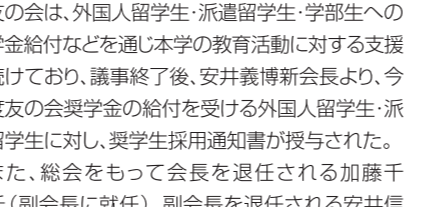
南山大学在学生の父母などにより構成される南山大学後援会の定例評議員会・総会が6月14日、理事・評議員108名の出席のもと、名古屋ガーデンパレスで開催された。
会議では、1) 2007年度事業報告および決算報告 2) 役員の変更 3) 2008年度事業計画および予算について決議され、大学との共催による第36回「父母の集い」が9月27日名古屋・瀬戸両キャンパスで実施されることが決定した。
また大学より、学生生活の近況、2007年度就職状況、就職支援プログラム、キャリアサポートプログラムなどについて報告された。



後援会Webページ
<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kouenkai/index.html>

友の会評議員会・総会 開催

南山大学を支援する地域社会の一般および法人会員により組織される南山大学友の会の評議員会・総会が7月23日、会員56名の出席のもと、名古屋ガーデンパレスで開催された。
会議では、1) 2007年度事業報告および決算報告 2) 役員の交代 3) 2008年度事業計画および予算について決議され、それぞれ承認された。
友の会は、外国人留学生・派遣留学生・学部生への奨学金給付などを通じ本学の教育活動に対する支援を続けており、議事終了後、安井義博新会長より、今年度友の会奨学金の給付を受ける外国人留学生・派遣留学生に対し、奨学生採用通知書が授与された。
また、総会をもって会長を退任される加藤千磨氏(副会長に就任)、副会長を退任される安井信



南山大学友の会会員募集中
南山大学の教育・研究活動にご支援いただける一般および法人会員を募集しております。
[年会費] 一般会員1口10,000円 法人会員1口30,000円
※何口でもお申込みいただけます。
友の会Webページ
<http://www.nanzan-u.ac.jp/tomonokai/index.html>

寄付者ご芳名

「南山大学教育・研究支援」へのご協力に感謝いたします。
米日財団東京事務所様 高木 隆行様
トヨタファイナンシャルサービス(株)様 平野 明喜様
東海旅客鉄道(株)様 奥尾 雅巳様
(株)名古屋銀行様 太田 孝志様
上智大学西北タイ歴史・文化調査団様 竹田 繁夫様
(収集資料および記録資料) 野村 健司様
大同生命保険(株)様 関 喜照様
山口 光大様 宮川 昇様
郭 小青様 本村 英二様
立山 重都様 河合 芳光様

南山大学

発行 学長室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Phone: 052-832-3113 (直通)
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp
<http://www.nanzan-u.ac.jp/>

後援会収支計算書および予算書 (単位:円)

科目	2007年度決算	2008年度予算
収入の部		
前期繰越金	3,017,574	3,443,371
入会金	2,209,000	2,309,000
会費	177,735,500	177,320,000
預金利息	90,784	91,000
基金運用利息	1,139,011	1,192,000
合計	184,191,369	184,355,371
支出の部		
教育・研究活動等支援援助金	168,000,000	168,000,000
留学生支援活動援助費	(79,039,500)	(90,000,000)
教育研究図書援助費	(53,960,500)	(43,000,000)
広報活動援助費	(10,000,000)	(10,000,000)
課外活動援助費	(20,000,000)	(20,000,000)
就職指導活動費	(5,000,000)	(5,000,000)
後援会活動費	7,608,987	8,678,000
父母の集い	(1,385,133)	(1,618,000)
就職活動援助費	(1,200,000)	(1,200,000)
広報費	(4,408,444)	(5,000,000)
事務費	(615,410)	(860,000)
課外活動援助基金積立	4,000,000	4,000,000
課外活動援助基金積立利息	745,605	794,000
事故対策基金積立利息	393,406	398,000
予備費	0	400,000
次期繰越金	3,443,371	2,085,371
合計	184,191,369	184,355,371

後援会貸借対照表 2008年3月31日現在(単位:円)

	借方	貸方
預金	123,798,594	課外活動援助基金 80,621,219 事故対策基金 39,734,004 次期繰越金 3,443,371
合計	123,798,594	合計 123,798,594

之氏(顧問に就任)に対し、カルマノ学長より感謝状と記念楯が贈呈された。



南山大学友の会会員募集中
南山大学の教育・研究活動にご支援いただける一般および法人会員を募集しております。
[年会費] 一般会員1口10,000円 法人会員1口30,000円
※何口でもお申込みいただけます。
友の会Webページ
<http://www.nanzan-u.ac.jp/tomonokai/index.html>

行事

- 野外宗教劇「受難」 10月11日(土) 場所:名古屋キャンパス (※雨天時は18日)
- インドネシア語スピーチコンテスト 10月12日(日) 場所:名古屋キャンパス
- 一日体験入学会 10月13日(月・祝) 場所:名古屋キャンパス・瀬戸キャンパス
- 南山大学・豊田工業大学連携講演会 10月18日(土) 場所:豊田工業大学
- 第8回聖南祭「LOVE」 10月25日(土)～26日(日) 場所:瀬戸キャンパス
- 総合政策学部高校生総合政策作文コンクール表彰式 10月26日(日) 場所:瀬戸キャンパス
- NANZAN FESTIVAL 2008「Hands」～11月3日(月・祝) 場所:名古屋キャンパス
- 英南戦 11月16日(日) 場所:南山大学

※詳細は本学Webページの「イベントカレンダー」をご覧ください。

南山大学広報誌

NANZAN bulletin vol.166 2008.9.30



予告
第50回上南戦
(上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会)
2009年6月5日(金)～7日(日)開催
会場校:上智大学

NANZAN UNIVERSITY

Campus Topics

第8回聖南祭 ～LOVE～

聖南祭実行委員会 委員長 石垣 純一
(総合政策学部総合政策学科3年)

第8回聖南祭は、10月25日・26日に瀬戸キャンパスにて開催されます。私たち聖南祭実行委員会は、第8回聖南祭を多くの方々を楽しんでいたたくために、現在82名の実行委員が1年を通じて活動しています。

聖南祭の一番の特徴は「地域密着型の大学祭」であることです。具体的には、地元山口県区自治会、瀬戸市市民活動センター、豊野団地商店街など地域コミュニティの祭りや行事にボランティアとして参加したり、瀬戸市と近隣6大学で行われている「大学コンソーシアムせと6大学合同大学祭」でも6大学の先頭に立つべく積極的に活動しています。また聖南祭当日においては、それらのコミュニティや地域団体のみなさんに聖南祭の場を利用して「階段装飾」も準備してあります。25日には体育館でEXILEの弟分である「COLOR」による学園祭初ライブの開催も予定しています。もちろん聖南祭名物である、スクールバス停からの階段を大きく使った「階段装飾」も準備してあります。10月25日・26日は是非、瀬戸キャンパスへ足を運んでください。みなさんのお来場を心よりお待ちしております!

10月25日(土)・26日(日) 10月31日(金)～11月3日(月・祝)
第8回聖南祭 ～LOVE～ NANZAN FESTIVAL 2008 ～Hands～
(瀬戸キャンパス) (名古屋キャンパス)



International Friendship

第10回ASEACCU学生会議

8月28日から30日まで、インドネシアのBandungでASEACCU国際会議が開かれた。ASEACCU (Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities) とは、東南アジア・東アジア(オーストラリア、インドネシア、フィリピン、タイ、台湾、韓国、日本)のカトリック系大学連盟である。この会議は16年前から毎年開催されており、10年前から教員だけでなく学生も参加している。今年は「The Role of Catholic Higher Education in Promoting the Civilization of Love and Solidarity as Responses to Economic and Cultural Globalization」をテーマに7つの国と地域の学生総勢約170名が参加した。

3日間、会議を含めコミュニケーションはすべて英語で行った。それぞれ異なったバックグラウンドを持った学生たちが集まり意見も合った。その中で、言語能力だけではなく国際社会におけるコミュニケーション能力の必要性と積極的な姿勢の重要性を感じた。またアジアの学生たちが、他の文化・生活・習慣へ強い興味を示す姿は私達を驚かせ、他の国々に目を向け視野を広くすることの大切さを改めて感じた。また同時に大きな刺激となり、これからの大学生活の中で積極的に海外との交流を深めたいと感じた。

また、会議以外にインドネシアの農村部を訪れる機会もあり、そこでインドネシアの昔ながらの生活に触れることができた。ここにはいま、私たちが失いつつある純粋な笑顔や自然に囲まれた暮らしが存在している。他の学生は彼らの生活をより便利で豊かなものにしたいたいと思いましたが、私は日本人として、彼らに産業的な生活を得るだけではなく、日本ではすでに私たちが失ってしまった純粋な心と生活をいつまでも持ち続けてほしいと思った。3日間という非常に短い期間ではあったが、他国の学生との間に生まれた絆や国際社会における積極的な姿勢の大切さなど本当に多くのことを学ぶことができた。そして、この会議に大学の代表として参加することができた幸運に感謝すると共に、これからの国際社会において、日本人としてなにごできるのかということを考えていきたい。



